

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2024(令和6)年度 事業報告

(2024年6月1日～2025年5月31日)

2024 年度事業概要

2024 年度は、前年度に引き続き、県内の複数の地域で新たにプレーパーク活動をはじめ、団体が生まれるなど、遊び環境づくりのひろがりが見えてくる一年となった。市民側の動きと歩調を合わせ、自治体側の施策も増えてきており、冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークとして、こうした動きを後押しする形で、さまざまな取組みを行なった。

力を入れているものの一つが、2020 年に始まった仙台市の「遊びの環境の充実」施策関連の協働事業である。2024 年度は、前年度の「プレーパーク活動普及啓発事業」を受けた「遊び場展開事業」を受託、山と海辺という自然豊かな環境から街なかの公園・市民センター・学校など既存施設まで屋内・屋外の多様な場所で遊び場活動を展開し、その活用可能性を示すことができた。3 月に仙台市が策定した「遊びの環境の充実に向けた取組方針」では、6 つの主な取組のうちの一つとして「プレーパーク活動の推進」等が位置付けられている。宮城県が取り組む県立公園でのプレーパーク事業にも参画しており、県内の他地域へのひろがりへも期待が高まっている。

自治体の後押しも受けながらひろがる市民による遊び場づくりの取組みの支援についても、市受託事業としてのプレーリーダー研修実施をはじめ、プレーリーダー派遣や交流会の実施、その他各種相談対応を行なった。

指定管理者として運営する「海岸公園冒険広場」も、酷暑など厳しい状況にも見舞われながらさまざまな工夫をして来園者を迎えている。また、震災 10 年を経てようやく本格的なまちづくりの動きが始まった井土地区をはじめ周辺地域とも連携しながら、被災した沿岸部の地域の思い出をつなぎ、魅力を伝える遊び場・交流サロンなどの取組みを続けた。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2024 年度事業計画において掲げた6つの重点的取り組みについて、4 段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」 項目	主な事業	定款 区分	2024 年度達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
① 海岸公園冒険広場の 着実な運営と、周 辺も含めた展開	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者としての海岸公園冒険広場の着実な運営 沿岸部の他の活動・施設とも連携しての賑わい・交流の創出 震災の「記憶」の保存・記録・発信や、経験を活かした事業による防災への貢献 冒険広場および周辺地域の魅力を引き出す、生き物・みどりと親しみ伝える活動 震災を伝えるほか、体験活動等も含めた学校の授業等への協力 	1. 2. 4. 5. 6. 8.	◎ 夏季・冬季の天候は厳しかったものの年間を通しては前年度を上回る来園者を迎えた。猛暑時の水遊び等、様々な工夫も継続している。 また、周辺団体・施設との連携事業に取り組みながら、自由な遊び場の価値や、沿岸部のもつ魅力の発信も行っている。
② 震災被害の大き かった地域を中心 に取り組む遊び場 づくり等	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災被災地域周辺での遊び場活動 遊び場活動と連携した、思春期年代の子の居場所づくり事業の試行（以上、東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金事業） 遊び場活動と連携した、交流サロン事業等の継続（宮城県 NPO 等による心の復興支援事業） 	1. 3. 5. 8.	◎ 遊び場開催や地域行事協力を継続し、計画以上の回数を実施した。また、遊び場で見えたニーズをもとに居場所づくり事業もスタートさせた。交流サロン事業も継続している。
③ 地域住民による遊 び場づくり活動の 促進・支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民などの遊び場づくり活動のはじめの一歩の積極的支援 住民発意による遊び場運営の促進・支援 定期開催を見据えたプレーリーダー養成講座の実施（今年度は市事業として実施） 北山活動ベースを拠点とした市民ネットワークづくり 	2. 4. 5. 6. 8.	◎ 昨年度に続き個人・既存団体からの活動支援要請に応えた。また、市が実施する支援事業（プレーリーダー育成推進業務等）も受託して取り組むと共に、そこに参加した担い手のフォローアップ・ネットワークづくりにも取り組んだ。
④ 子ども・子育て支援 計画の策定も受け た、調査・提言・実 践活動	<ul style="list-style-type: none"> 「仙台市百年の杜づくりプロジェクト推進計画」策定後の施策動向の確認・参画 仙台市が実施する「遊び場展開事業」「プレーリーダー育成推進業務」の受託実施 仙台市がスタートさせた「プレーパーク等運営補助事業」の実施状況の確認・提案 宮城県が県立加瀬沼公園で実施するプレーパーク事業への参画 県内自治体が策定することにも関する計画へ提言 こども家庭庁の施策実施動向のフォローアップ 	2. 3. 7. 8.	◎ 仙台市「遊び場展開事業」「プレーリーダー育成推進業務」の取組みを通して、さらなるプレーパーク活動の市内への普及・展開および担い手の発掘・育成を図り、また今後に向けた提案を行なった。県立加瀬沼公園でのプレーパーク事業も受託、普及・啓発につなげている。 自治体こども計画のパブリックコメントについては、提言の他、実施情報の活動者等への提供を行なった。
⑤ のびすく若林と連 携した、乳幼児親子 への遊びの大切さ の発信	<ul style="list-style-type: none"> のびすく若林の日常運営のなかでの、ふるさと広場も活用した外遊びの機会の創出 「おそとのびすく in 木ノ下公園」「出前のびすく」の継続的な展開 ②の遊び場活動とも連携した、「てくてくプレーパーク」の展開（のびすく若林連携事業） 	8.(8)	◎ 日常的な外遊びの取り組み「おそとのびすく」およびイベントの形をとる「のびすくプレーパーク」を、のびすく若林に隣接する若林区ふるさと広場で実施すると共に、出張形式の「おそとのびすく in 木ノ下公園」「てくてくプレーパーク」についても定期開催した。
⑥ 組織運営基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ここまで整えてきた組織体制の安定化 施策動向をにらみ、人材育成の方向を見出す 長期的な収支見通しを見定める 新たな自主財源の開発 	9.	△ 将来に向けたスタッフ補充など行なった。職員交代に伴う事務局体制づくりは課題となっている。 5 年ごとの認定 NPO 更新が認定されたものの、新規自主財源の開発も含め、長期的な収支見通しを立てるには至っていない。

1. こどもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築：海岸公園冒険広場運営委員会

地域に根差した公園運営を目指し、地域関係者を委員にした運営委員会を開催した。

- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・七郷地区町内会連合会
- ・六郷小学校、七郷小学校
- ・仙台市私立幼稚園連合会若林地区
- ・六郷市民センター・児童館
- ・七郷市民センター・児童館
- ・せんだい3.11 メモリアル交流館
- ・仙台市若林消防署六郷分署
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区公園課
- ・仙台市建設局公園管理課、百年の杜推進課
- ・海岸公園馬術場

(2) その他、他団体とのネットワーク

- * NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワークとの乳幼児事業における連携（事業8.(2)(8)等）
- * 仙台市遊び場展開事業における連携（プレーパークス、都市デザインワークス、海辺の図書館、深沼ビーチクリーン、てらむらプレーパーク、むすび隊、このはな牧場、森の寺子屋、むかい＊いきもの研究所、せんだいファミリーサポート・ネットワーク、よへえぬまプレーパーク）
- * 仙台市都心遊び場調査事業における連携（西公園プレーパークの会、せんだいファミリーサポート・ネットワーク、定禅寺エリアマネジメント、ユーメディア）
- * 海岸公園各地区指定管理者による「海岸公園運営協議会」（仙台市公園緑地協会事務局）
- * ふるさと杜再生プロジェクト（仙台市百年の杜推進課事務局）委員
- * 宮城県子ども・若者支援会議（チャイルドラインみやぎ事務局）参加
- * 仙台海手ネットワーク（荒井タウンマネジメント事務局）参加
- * わたしのふるさとプロジェクト（六郷市民センター事務局）参加
- * 日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

上記の他、事業8.の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集・発信

理事会を中心とした仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、仙台市受託事業「遊び場展開事業」「プレーリーダー育成推進業務（プレーリーダー養成講座）」の取り組みも通じて広がり深まった他団体・個人とのネットワーク等を通じて、県内外の遊び場づくり活動の情報を収集すると共に、活動に関心のある人たちに紹介した。

(2) ホームページ・SNSを活用した情報発信

<HP> <https://bouken-asobiba-net.com/> <Instagram> https://www.instagram.com/bouken_asobiba_net/

HPでのお知らせや報告と合わせ、日々の遊びの様子を発信する頻度が高まった。昨年に引き続き、情報発信力強化を図った法人HP経由の問合せは相次いでおり、活動に参加するボランティア増加にも寄与している。プレーパークを利用することの保護者がスマホ世代中心であることを踏まえ、法人Instagramに月次の予定を投稿している。投稿を見て遊びに来たという親子も増え、「こういう遊びができる場所がないか探していたんです」という層に情報が届けられている。

(3) 「冒険あそび場だより2024」の作成

これまで、「冒険あそび場だより」はその年のトピックを取り上げてきたが、団体全体の活動内容や目指すものについて記載し団体紹介の資料としても使用できるものを発行した。活動支援や研修会・交流会、行政との連携について記載することで、我々だけが遊び場づくりに取り組んでいるのではなく、社会全体での取り組みなのだと発信し、会員やボランティアなど活動に共感する仲間を増やしていけることを目指した。また、制作の過程で職員が改めて各事業について整理する機会にもなった。

(4) 取材・報道等への協力

事業8. を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。

＜新聞＞ 河北新報朝刊 11/28 「仙台海浜エリアに出かけよう」

＜その他＞ みやぎ県政だより 2024 年度5・6月号「県政ニュース 加瀬沼公園プレイパークで遊ぼう！」
仙台市政だより 9月号「せんだい子育てインフォメーション『第6回公園を思いっきり楽しもう』」
多様な主体との連携づくり事例集 宮城県環境生活部共同参画社会推進課発行
インスタグラム 「TT (TOHOKU TIKTOK) 東北を盛り上げ隊」 他

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

(1) 県内自治体が策定することも計画の調査

県内の各自治体のこども計画について、パブリックコメント募集の情報を集約し、当法人のHP や関連する地域の活動団体への情報提供を行なった。また、「(仮称) せんだいこども若者プラン 2025」に対してパブリックコメントを行なった。

(2) こども家庭庁の施策実施動向のフォローアップ

こども家庭庁の施策について、web 上の公開情報をベースに情報収集を行い、オンライン上での勉強会などにも参加した。

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

冒険遊び場づくりへの相談のほか、遊び場づくり団体、その他 NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

(1) 地域主体の遊び場づくり支援

2024 年度も「プレーパーク活動等運営補助事業」を受け、新たに活動をスタートする団体への支援をはじめ、県内各地での遊び場づくりに関する相談・支援を行なった。また、事業 6. (1) 仙台市プレーリーダー養成講座や、事業 5. (1) 仙台市遊び場展開事業を通じて担い手の発掘・育成を行い、事業をきっかけに活動をスタートする団体も増え、こどもの保護者への普及・啓発も進め、こどもの遊び環境の充実に寄与することができた。支援内容としては、活動場所の特性や地域のニーズ、担い手一人ひとりの思いに合った方法をとともに探り実現する支援を心掛けた。また、多岐にわたる支援を以下のように整理した。

- ・開催支援…プレーパークを開催したい地域団体や個人に対して、「プレーリーダー」としての役割をはじめ、開催実施の運営についても担う。
- ・プレーリーダー派遣…自力でプレーパークを開催している団体に対して、より良くするためにプラスアルファのスタッフとして応援に行く。
- ・活動支援…実際の開催現場には行かず、運営についてのアドバイスや相談を受ける。

★は今年度から始まった活動

地域	活動	支援内容	日付	回数
青葉区	★ひがこうプレーパーク	開催開始支援	3/8、4/20	2 回
若林区	★ふかぬまプレーパーク	開催開始支援	10/13 ※あそびばせんだいでも連携	1 回
若林区	六郷キッズファームプレーパーク	開催支援	…事業 8. (2) ④	
青葉区	かいがもりプレーパーク	開催支援	6/9、7/20、8/16、9/29、 11/16、2/2、5/25	7 回

青葉区	あそびのうつわをひろげる会 「あそぶカフェ」	開催支援 (毎月第3日曜日)	6/16、7/21、8/18、9/15、 10/20、11/17、12/15、 2/16、3/16、3/23、4/20、 5/18	12回
青葉区	★「子どもが作る子どもの屋外居 場所づくり」	開催支援 (毎月第1日曜日)	10/6、11/3、12/1、1/5、2/2、 3/2、4/6、5/4	8回
宮城野 区	Open Village ノキシタ 「プレーパークノキシタ」	開催支援 (原則毎月第1金曜日開催)	6/7、7/19、8/2、9/6、 10/11、11/1、12/6、1/10、 2/7、3/7、4/11、5/9	12回
青葉区	のりっぱであそぼう	開催支援 +チラシ作成	9/16、11/17	2回
泉区	てらむらプレーパーク	プレーリーダー派遣	8/25、9/23、12/28、2/24、	4回
若林区	ふるじろプレーパーク	プレーリーダー派遣	6/30、8/2、8/4、9/29、 11/3、11/24、12/15、2/23、 4/20	9回
岩沼市	「楽農村」	プレーリーダー派遣	7/6	1回
富谷市	ふうとばんく東北 AGAIN 「とみやっこプレーパーク」	プレーリーダー派遣	6/21、8/2、8/3、10/4	4回
		活動支援	6/14、7/12、	2回
大和町	遊び場どうじょ!	プレーリーダー派遣	11/2	1回
石川県	手作り空き地で遊ぼう こどもの遊び場 in 能登町	プレーリーダー派遣	2/15、2/16	2回

F

(2)講師派遣等

- ・5/16(木)、6/18(火)、11/12(火) 新田東すいせんこども園
- ・11/4(月祝) 南光台子ども会育成会 インリーダー研修
- ・11/17(日) 仙台市太白区遊びの担い手事業「外遊び大作戦」
- ・1/19(日) 「災害時における子どもとの関わり～遊びが紡ぐ心の復興～」
- ・2/24(月祝) 「街が僕らの遊び場だ!～三世代遊び場凶鑑復刊記念シンポジウム」
- ・3/6(木) 「NPO INTERNSHIP 社会貢献に関わる先輩、大人の話を聞けるトークイベント」
- ・3/29(土) 「屋内あそび場に関するシンポジウム みんなが家族のように繋がる未来を実現する～仙台市の屋内遊び場について考えよう～」

(3)研究者・学生からのヒアリングへの対応等

- ・11/21(木)「子ども支援市民団体と行政・専門職の関係構築に関する研究」ヒアリング(あさひかわあそびMORE! 工藤氏・鈴木氏/研究代表者清水冬樹准教授)
- ・10/26(土)・27(日)ほか「オーストラリアと日本における都市住民の環境活動に関する調査」参与観察・ヒアリング(東北大学情報科学研究科岡田彩氏・周玉均氏ほか)

他

(4)視察・見学受入れ等(海岸公園冒険広場等)

- ・7/24(水) 仙台市市議会議員、仙台市職員
- ・9/9(月) 気仙沼市職員、子育て関係者
- ・9/12(木) 岩手県「吉里吉里国」
- ・11/26(火) 北海道「あさひかわあそびMORE」
- ・3/9(日) 黒川郡大和町「地域居場所づくり まぼいっちゃん」

他

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

(1) 仙台市遊び場展開事業の受託実施

2020年度の「遊びの環境に関する調査・研究業務」・2022年度の「遊びの環境に関する実証実験業務」を受け、2023年度は仙台市が今後の遊びの環境の充実のための方向性の一つとして「プレーリーダーの居る日常の遊び場の普及」を挙げ、「プレーパーク活動等普及啓発業務」を行った。これまでの事業の中で「自然の中での遊び方が分からない」という保護者の声を受け、本年度は仙台市内にある既存資源としての自然や施設の活用を目的とした「遊び場展開事業」を実施することとした。公募に対して、一般社団法人プレーワーカーズ、NPO法人都市デザインワークスと組む共同事業体「せんだい遊びとまちネットワーク」（当会が代表団体）として応募し受託実施した。

本業務では、プレーリーダーを配置したプレーパークを下記の日程で開催すると共に、各回に合わせてボランティアスタッフを募集・研修を行い人材育成の役割も担った。

7月28日(日)、29日(月)	深沼海水浴場	海辺でのプレーパーク開催
8月31日(日)、9月1日(月)	泉ヶ岳スキー場周辺・オーエンス ふれあい館周辺	山でのプレーパーク開催
10月26日(土)、27日(日)	榴岡公園・榴岡市民センター	街中の公園でのプレーパーク開催
12月14日(土)・1月18日(土)	南材木町小学校	小学校でのプレーパーク開催

(→市HP:「令和6年度仙台市遊び場展開事業」について)

(2) 仙台市都心部遊び場調査業務委託

新たにプレーパーク活動を始める活動者が増加傾向にあることを受けて、その支援につながるような講座・研修・交流会等開催に力を入れた。とりわけ「みやぎプレーリーダー養成講座初級編」は、毎年1回は実施することを目指した、継続を前提としたプログラムとなっている。

(3) 若林区を中心とした、海岸公園冒険広場と連携した巡回型遊び場の運営 (→事業8. 参照)

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場と連携する形で、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての巡回型遊び場を運営した。

(4) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援 (→事業4. 参照)

仙台市を中心に、県内各地で始まっている遊び場づくりの取り組み等を支援するため、プレーリーダー派遣等を行った。

6. プレーリーダーの養成に係る事業

本年度は、昨年度当法人独自に行っていた「プレーリーダー養成講座」を仙台市事業として受託し、実施した。また、事業5.(1) 仙台市遊び場展開事業でのボランティアプレーリーダーの受け入れを行ない、事前研修から実践、ふりかえりをセットとした実践経験をする機会をつくることができた。

(1) 仙台市プレーリーダー養成講座 (仙台市プレーリーダー育成推進事業)

講座名称	実施場所	日時	研修修了者数
夏のプレーリーダー養成講座	・トークネットホール仙台 ・西公園	2024年9/7(土)・/8(日) 10時~16時	17人 ※参加者18人
冬のプレーリーダー養成講座	・トークネットホール仙台 ・西公園	2025年1/25(土)・/26(日) 10時~16時	22人

講師：廣川和紀（一般社団法人 プレーワーカーズ）

齊藤信三（当会 プレーリーダー）

協力団体：西公園プレーパークの会

(2) その他の講座・研修 等

実施日	内 容	講師等	実施枠組等	対 象
2024/6/12	市民防災の日「シェイクアウト訓練」	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
7/21	「あそびばせんだい」 ボランティアスタッフ研修	当会プレーリーダー	仙台市遊び場展開 事業	活動者 ボランティア
8/20	改正障害者差別解消法について	内部研修		スタッフ
8/25	「あそびばせんだい」 ボランティアスタッフ研修	当会プレーリーダー	仙台市遊び場展開 事業	活動者 ボランティア
10/12	「あそびばせんだい」 ボランティアスタッフ研修	当会プレーリーダー	仙台市遊び場展開 事業	活動者 ボランティア
11/2	避難誘導確認		海岸公園冒険広場 指定管理業務	海岸公園 指定管理者
2025/1/11	講演会「子育てがもっと楽しくなる！ プレーパークとは？」	日本冒険遊び場づく り協会 関戸博樹氏	仙台市プレーリー ダー育成推進事業	一般
1/11	プレーパーク交流会「子育てと運営 とプレーリーダー」	日本冒険遊び場づく り協会 関戸博樹氏		活動者 一般
2/18	法人ビジョンと事業目標について	内部研修	子どもサポート基金	スタッフ
3/25	個人情報保護・情報セキュリティに ついて	内部研修		スタッフ

(3) インターン受入れ

- ・SOMPO 環境財団「CSO ラーニング」長期インターン生（8か月） 1 名 受入れ

(4) ボランティア受入れ

- ・杜の伝言板ゆるる「NPO で高校生の夏ボラ体験」受入れ …夏休み中 3 日間 海岸公園冒険広場 3 名
 - ・MDRT 日本会 東北ブロックボランティア 受入れ …7/6 海岸公園冒険広場 21 名
 - ・東北大学課外・ボランティア活動支援センター ボランティア支援学生スタッフ“SCRUM” ボランティア活動体験会協力
3/12 説明会 → 3/21：2 名、3/26：3 名、 計 5 名（および SCRUM スタッフ）受入れ
4/5 説明会 → 4/19：4 名（および SCRUM スタッフ）受入れ
- ※その他、ホームページ経由等で、個別のボランティア受入れを行なった。

7. こどもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

(1) 仙台市「こどもの遊びの環境充実」施策関連

仙台市で、前年度「遊びの環境の充実」施策としてプレーパークの拡充を目指す事業がスタートしたことを受け、各地域の活動団体の取り組み状況を踏まえた事業内容の提案を含め、事業実施に積極的に参画していった。3 月に市が策定した「遊びの環境の充実に向けた取組方針」で、6 つの主な取組として「プレーパーク活動の推進」をはじめ「自然を活用した遊びの充実」「既存の施設での遊びの充実」等が位置付けられたのも、協働の成果と言える。

- ・仙台市遊び場展開事業（せんだい遊びとまちネットワークとして受託実施）
- ・プレーリーダー等育成推進事業（せんだい遊びとまちネットワークとして受託実施）
- ・仙台市都心部遊び場調査業務委託（実施協力）
- ・太白区遊びの担い手育成事業（一部実施協力）

(2) 仙台市みどりの基本計画の新計画期間の施策動向の確認・提案

「仙台市みどりの基本計画及び「百年の杜づくりプロジェクト推進計画 2021-2025」に記載された「プレーパークの拡充」や、「プレーパークの普及啓発、プレーリーダーの育成推進、活動の内容に応じた柔軟な公園運用」については、まずは上記子ども若者局事業の中で取り組まれることになったため、同事業の実施に協力する中で、課題の把握・提案等を随時行なった。

(3) 県内自治体が策定することも計画の調査・提言

県内の各自治体のことも計画について、パブリックコメント募集の情報を集約し、当法人のHP や関連する地域の活動団体への情報提供を行なった。また、「(仮称) せんだいこども若者プラン 2025」等のパブリックコメントに対して提案を行なった。

(4) 宮城県事業「加瀬沼公園プレイパーク」への参画

宮城県が取り組む県立公園でのプレーパーク事業についても、事業へ参画し、またワーキンググループ委員としても、今後望まれるあり方について提案を行った。

(5) こども家庭庁設置に関連した施策動向の確認

こども家庭庁設置に伴い検討される居場所づくりについての事業実施見通しについて、日本冒険遊び場づくり協会学習会などの機会も利用し、情報収集した。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

(1) 海岸公園冒険広場の運営 【仙台市指定管理業務】 (株)東洋緑化と共同企業体を構成し運営)

週 6 日開園 (毎週火曜日休園) 来園者数：約 12.9 万人(2024.4~2025.3)

2024 年度の公園来園者数は、2023 年度と比較し微増となった。4・5・11・3 月は例年より気温が高い日が多く遊びやすい気候だったためか大幅に来園者数は増えた一方で、ただ夏場は暑さが厳しく、冬場は風の強さと気温の低さが影響して 7~9 月・12 月~2 月の来園者数が減少した。

そんな中、近年課題となることの多い暑さ対策に関しては、単に遊具の利用停止などの措置をとるだけでなく、灌水チューブを使った噴水や、手作りのウォータースライダーやプールといった水遊び、日よけネットを使った日影の増設など、管理を強めるだけでなく、暑い中でも遊べるように工夫した。また 11 月末から 12 月末には毎週末イベントを実施し冬場の来園者を呼び込むきっかけづくりを行った。

その他、引き続き園内をひろびろと遊べるようにする工夫 (バス駐車場の遊び場としての開放、虫取りなどの遊具以外の遊びきっかけづくり) を行い、HP などで発信して来園者の会得に努めた。

自主事業についても、園内の草花を使つての染物や貞山堀を使った生き物探し等を行った。また、のびすく若林と連携して未就園児向けのイベントも行った。その他、(2) 事業と連携し市街地を含む周辺地域と本公園のつながりを生んでいる。特に本公園のある井土地区周辺での「ひろびろとした環境を活かした遊び場」については通年で実施し、町内会やまちづくり推進協議会、生産組合と連携しながら、季節に合わせ虫捕り、イナゴ採りや氷遊び等身近な自然や地域で遊ぶことを再認識してもらう提案を行うことができた。また井土地区で行われたマルシェや六郷東部での祭りや鎮魂の花火にも参加し、普及啓発・地域の活性化にも取り組んだ。

また再開後の重要な役割である震災伝承・防災についても継続して取り組み防災展示をはじめ、継続実施している防災東屋の設営訓練を行った。その他、学校の教育活動への協力、行政の視察受け入れ等にも取り組んだ。

(2) 冒険広場周辺地域で開催する遊び場

海岸公園冒険広場周辺被災地域を中心とした巡回型の各あそび場は、新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、2021 年度にできるところから徐々に再開し、「継続的に訪れることのできる居場所」として定期的に実施することを目指してきた。今年度は、定期的な開催が定着し多世代が交流できる場として地域から期待される声も出ている。また、運営を行なうための地域との関係づくりが、他地域で遊び場づくりを行ないたい人のモデルとなるような場になっていたり、ボランティアが継続して関われる場にもなっている。

<若林区：七郷地域の遊び場> ①②

七郷地域では、集団移転先・復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通も受けて増え続ける住民の受け皿になっている区画整理区域を中心に、新住民同士、新住民と旧住民、各校の児童同士など多様な交流の場となる遊び場づくりを目指してきた。

今年度は、昨年度移った七郷中央公園での継続的な活動により、遊びに来る子どもや地域の大人も常連化してきた。乳幼児親子を主対象とするてくてくプレーパークも同じ区七郷中央公園で展開すると共に、地域施設と連携した「おでかけててくてく」を行い、子育てコミュニティの一つになっている。

① **七郷中央公園プレーパーク** 計 24 回 のべ 1608 名【子どもサポート基金助成】

昨年度から七郷中央公園に活動の場を戻し、「七郷中央公園プレーパーク」と名を改めた。近隣小学校、町内会へのチラシの配布を継続している。

子どもたち自らロープ遊具を作ったり、子どもと大人の交流が生まれており、継続して開催することの効果が出てきている。

② **てくてくプレーパーク**（七郷中央公園他）計 13 回のべ 558 名 【のびすく若林連携事業】

昨年度から七郷中央公園に会場を移し、七郷中央公園プレーパークとの連続性も生まれるようになった。また、のびすく若林から紹介されて遊びに来る人も増え、同年代の親子同士での交流が生まれている。要請を受けて他地区での実施も増え、今年度は七郷市民センター・なないろの里こども園でも実施した。

＜若林区：六郷地域の遊び場＞ ③～⑤

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学区周辺）で被災した人の多くは、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に移り住んだため、移転先の地区と現地再建地域の双方で遊び場活動を実施してきた。今年度も地域全体で子どもが遊び、見守る意識が地域にうまれるように、六郷地区での自然環境を活かした遊びに力をいれ、少しずつ子どもたち自身が地域の中で遊ぶようになり、遊び場の回遊も見られた。また、継続した活動の中で見えてきた、中高生になった子どもたちの行き場として、居場所事業も始めた。

③ **久保田東あそび場**（久保田東 3 号公園）計 13 回 のべ 253 名【子どもサポート基金助成】

防災集団移転促進事業による「六郷地区」に設立された久保田東町内会の集会所に隣接する公園での遊び場。震災により転居してきた人とそうではない人との間を取り持つ役割も含め、多世代の交流の場となることを目指してきた。24 年度は連携している「だがしやきち」（六郷保育園の隣接地でこどもの居場所づくりにつながる駄菓子屋事業）や、当法人の居場所事業「となりのきち」につながることを意識し、中学生に積極的に声をかけてきたことで、久保田東プレーパークでは中学生が滞在し、異年齢間の交流が生まれることも増えたように思う。そこから連携先への回遊も生まれ、これまで久保田東プレーパークを中心に活動に参加してきた小学生が成長し、自らの活動範囲や出会う人の幅を広げていくきっかけとなっている。

久保田東プレーパークの活動が終了した後にも地域に遊びのタネが残るように、水路での生き物さがしや収穫が終わった田んぼでの凧あげ、花冠づくりなど、地域環境を活かした遊びの展開を意識して仕掛けた年でもあった。

今後は縁側倶楽部との同時開催もすることで、子どもから大人までの交流をさらなる促進を目指す。

④ **＜連携＞六郷キッズファームプレーパーク** 計 12 回 のべ 318 名 【子どもサポート基金助成】

六郷復興公営住宅のやや北側、久保田東地区からもほど近い場所に開園した六郷保育園を運営する一般社団法人保育アートラボとの連携事業。継続的な開催によって顔見知りになった六郷保育園の園児と小学生、中学生が交流し、遊びを通じた異年齢集団が形成されている。

2024 年 4 月からは始まった、保育アートラボの「第三の居場所」へ向けての新事業「だがしやきち」と同時開催することで、より日常的なこどもの遊び場、居場所になりつつある。また、プレーパーク後の時間に開催している中高生の居場所「となりのきち」と連携し、多世代の受け皿になっていくことを目指している。

⑤ **東六郷であそぼう（井土地区周辺）** 計 3 回 のべ 90 名 【宮城県 NPO 等による心の復興支援事業補助金】

六郷東部の現地再建地域において実施している「遊びの原風景」調査で地域の大人から聞いたこどもの

頃の思い出の話を活かす遊び場活動を、今年度も開催した。今も地域に残るこどもの遊び環境の魅力を再発見し伝えていくことを目指し、今年度は井土まちづくり推進協議会が主催し、当法人が実施を行なった。

- ・8/11(日)「東六郷であそぼう」(井土浜パーゴラの広場周辺)
- ・10/14(月祝)「東六郷であそぼう！～田んぼにイナゴを探しに行こう！」(井土浜パーゴラの広場周辺)
- ・2/11(土)「東六郷であそぼう！氷で遊ぼう」(井土集会所周辺)

他に、せんだい3.11 メモリアル交流館・海岸公園冒険広場共催企画「井土の水辺で生きものさがし」を7/30(火)実施

⑥ 居場所事業「となりのきち」 計13回 のべ325名【子どもサポート基金助成】

六郷地区で活動が続けてくるなかで、小学校高学年や中高生が人と関わりたいという子たちの様子が見られ、腰を据えて関わられる場の必要性を感じた。六郷保育園運営者が、園の隣接地でこどもの居場所づくりにつながる駄菓子屋をオープンさせる構想があるとの話を受け、その開設準備に協力しながら、8月からは駄菓子屋のある敷地内で小学校高学年・中高生世代の居場所として「となりのきち」をオープン。駄菓子屋や六郷キッズファームプレーパークとも連携し、一体的な居場所となっている。小学校高学年の利用が多かったが、中高生の参加を増やすため4月からは夕方からの時間を中高生限定の居場所として開放したことで、中高生世代からも居心地の良さを感じている声が聞かれるようになった。

(3) 他団体が実施する企画の開催支援等

まちづくりの新しい取り組みや、プレーパークの開催につながる地域コミュニティの醸成に資する活動への協力依頼もあり、再開した地域のほか、新しくつながった地域からの協力依頼も含め、下記11件の依頼を受けた。

- 六郷東部夏祭り 7/20(土)
- ドリーム幼稚園父母会 行事協力 8/1(木)
- だがしやきち「きちまつり」協力 8/2(金)
- 上荒井町内会夏祭り 協力 8/3(土)
- 八本松児童館(太白区)「あそぼうさい」協力 9/28(土)
- 「なないろ☆ちびっこフェス」協力 10/1(火)
- ふうとばんく東北 AGAIN・ランチ仙台「みんなのマルシェ」協力 10/20(日)
- 六郷東部ふるさと交流祭 協力 10/27(日)
- 井土プチマルシェ 協力 11/2(土)
- 田子小PTA 秋まつり 協力 11/9(土)
- わたしのふるさとプロジェクト「第10回 鎮魂の花火」協力 3/1(土)

(4) 交流サロン「縁側倶楽部」等の支援活動の実施 【宮城県 NPO 等による心の復興支援事業補助金】

遊び場と連携し世代を超えた交流を目指した交流サロン「縁側倶楽部」は、今年度も広報を限定しての開催となったが、荒井東・久保田東の2か所で計10回実施した。

- ① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」
 - ・6/10(月)「紙と布の風鈴づくり」(12名参加)
 - ・7/8(月)「布貼り 小物入れづくり」(16名参加)
 - ・9/9(月)「サンキャッチャーづくり」(9名参加)
 - ・11/18(月)「干支『巳』の貼り絵」(10名参加)
 - ・2/10(月)「ひょうたんの押絵飾り」(14名参加)
- ② 久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」
 - ・6/24(月)「紙と布の風鈴づくり」(10名参加)
 - ・7/22(月)「布貼り 小物入れづくり」(7名参加)
 - ・9/30(月)「サンキャッチャーづくり」(11名参加)
 - ・11/25(月)「干支『巳』の貼り絵」(11名参加)
 - ・1/27(月)「ひょうたんの押絵飾り」(11名参加)

(5) 「ふるさとの杜再生プロジェクト」等、沿岸部におけるみどりの再生活動への参画

「ふるさとの杜再生プロジェクト」のメンバーとして、沿岸部におけるみどりの再生活動に取り組んだ。本プロジェクトは、仙台市・市民・NPO・企業等の力を結集し市民参加型で海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るものである。

(6) 「のびすく若林」の運営への参画

2017 年秋に開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」指定管理者の構成団体として運営（代表団体は NPO 法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク）。週 3 日プレーリーダーを配置し、隣接する若林区ふるさと広場を活用した外遊びの機会をつくっている。

日常的な外遊びの取り組み「おそとのびすく」およびイベントの形をとる「おそとのびすくプレーパーク」を引き続き継続した。常連親子が定着したことで、新たに来る親子の入りやすい雰囲気づくりに寄与し、その状況が続いていることで、今度は受入れられた側が雰囲気をつくる側になっているという循環ができてい

る。また月 1 回出張形式で実施している「おそとのびすく in 木ノ下公園」についても、定着が進んでいる。「おそとのびすく」「おそとのびすくプレーパーク」「おそとのびすく in 木ノ下公園」に参加している親子のなかには、当団体が実施する他のプレーパーク（「てくてくプレーパーク」「キッズファームでの遊び場」など）に参加する親子も出てきている。

(7) 加瀬沼公園プレイパークの運営【宮城県委託事業】 6 月～5 月 計 38 回

2024 年度も「宮城県プレイパーク運営等業務委託」を受託（一般社団法人プレーワーカーズとの共同事業体）し、県立加瀬沼公園内でプレイパークを開催した。

3 月以降、新しくできた管理棟脇に「プレイパークエリア」が開設されたため、道具類も現地にある倉庫に保管しながら遊び場を開催できる環境を整えられた。

週末には県内各地から遊びに来るため、はじめてプレイパークを知る人に近く of プレーパークを紹介したり、こどもが自由に遊べる場があることの価値を伝えていく場になっている。

(8) 能登半島地震被災地域へのプレーカーの派遣

2024 年元旦に発生した能登半島地震の被災地地域支援として、現地で遊び場活動に取り組んでいる「一般社団法人プレーワーカーズ」に今年度も継続して遊び道具や材料を積んだプレーカーを派遣している。なお、2/15 に輪島市内での遊び場、/16 に能登町での遊び場へのプレーリーダーの派遣も行なっている。

9. 組織運営について

2024 年度は、現中長期計画の三年目となる。同計画の「調査研究・政策提言や団体マネジメント力をつけるため、事務局体制を強化すると共に、中長期を見据えた人材の確保・育成を可能にする仕組みをつくる。職員の雇用方法や働き方についても検討を行う。」という方針を受けて、海岸公園・ネットワーク事業（北山活動ベース）・事務局それぞれの人員体制を見直すことで新たな事業の展開を図っており、将来に向けた人材育成にも取り組んでいる。ただし、職員交代に伴う新たな事務局体制づくりは課題となっている。

収支については、引き続き単年度の事業が多い中で財源は安定せず、前年度に引き続きマイナス決算となっている。基盤づくりの時期という面もあるものの、長期的な収支見通しを立てていくことが課題となっている。そんな中、5 年ごとに更新期を迎える「認定 NPO」について、これまでの適正な運営が認められ無事更新することができた。認定 NPO の強み寄付を増やしていくことや、新たな財源の開発は課題となっている。